

平成27年度 第3回座間市総合戦略推進懇話会 会議録

日 時 平成27年9月30日（水）13時30分～14時20分

場 所 座間市総合福祉センター（サニープレイス座間）3階 研修室

出席者 市長（委員長）、企画財政部長（副委員長）、芥川委員、伊田委員、稲垣委員、今福委員、鍛冶委員、川崎委員、川島委員、京免委員、黒田委員、黒部委員、鈴木委員、高橋委員、滝委員、長本委員、星野委員、堀川委員、村山委員

事務局 小林企画財政部次長、山本企画政策課長、安藤企画政策係長、山本主事、古場主事、小西主事

傍聴者 2名

公開可否 公開 一部公開 非公開

議題 ・座間市総合戦略（案）及び座間市人口ビジョン（案）について
・質疑応答

資料 ・資料1：座間市総合戦略（案）
・資料2：座間市人口ビジョン（案）

《 開会 》

（委員長）

原則公開となっているため、傍聴を認めることでよろしいか。

（委員）

《異議なしの声》

（委員長）

傍聴が許可されたので、2名の傍聴者の入場をお願いします。

(事務局)

21名中19名の委員の参加である。定足数を満たしているので、成立していることを報告する。議事録については、原則公開となる。事前に各委員のみなさんに送付するため確認をお願いしたい。

資料については、あらかじめ送付しているが、その後、修正したため、改めて用意している。委員長に進行をお願いしたい。

(委員長)

配布資料は事前に配布しているが、意見があればお願いしたい。

(委員)

数値目標を評価指標としているが、個人的な考え方かもしれないが、目標を達成するための戦略というのであれば、評価指標を文章化してはどうか。目標1であれば、定住人口を増やしたい戦略として、例えば「合計特殊出生率を増やします。」と文章化する。座間市の自然環境に関する項目は、「自然環境を大事にします。」として、「自然を感じられる割合を半分以上とします。」といった内容が文章化され、その次に戦略として数値目標を出す。

その次に四角に囲まれている具体的な施策が表現されるというイメージを持っている。そうでないと、施策がこれだけなのかという疑問がある。この4つで施策が網羅されているのか。逆に戦略として表現した場合、目指す方向性を述べ、イラストが付いている部分(基本施策)だけにとどめる。その下には具体的な事業を付くのであろうが、下につながる事業は、ひとつの項目にとどまらず、色々な事業を相当幅広く位置づけることになるため、財政的な面も含めてかなり表現が難しい。

イメージとしては、総合戦略ということであるため、具体的な事業名は記載しない方が好ましいのではないか。数値目標で評価するのであれば、それを戦略として分けてはどうか。

もう一つは、アンケートが載っているが、対象が限られている。そのアンケートを基に課題が記載されているが、本当にそうなのか。それ以外に、例えば高校生であれば、市外の高校に通っている高校生もいる。座間に住みたいのか、住みたくないのか。例えば高齢者の意見など、全部そういったアンケートを取らなければならない。アンケートはあくまで参考資料に留めていいのではないか。意見を反映しないという訳ではなく、参考として施策を検討しているという位置づけではないか。

もう一つ。観光交流とあるが、ひまわりまつりや大凧まつりにしても、市外からの観光客を呼べる唯一のイベントである。ひまわりまつりは観光客が増えている。ひまわり

を見るだけでなく、地元は何らかのお金を落としてもらう仕組みが大切である。滞留時間を増やして、どこを回ってもらうのか、また来てもらう、さらには住んでもらうという表現ができれば良い。

(事務局)

3点御意見を頂いた。

1点目、KPIについては、アウトカムの指標である。例えば、お祭りであれば来訪者の10万人を12万人とするのではなく、それによって市がどのように変わるのか、という事に踏み込んだ内容とするため、アウトカムのものを位置づけたつもりである。総合戦略的なものをKPIにした方が良いということであるが、今後も検討していきたい。

2点目、アンケートの対象者について。今回の3種類のアンケートは対象が限られている。例えば、転入・転出者アンケートでは、移住と定住ということにフォーカスを絞っている。子育てアンケートについては、子育て支援センターを使っている方に聞いている。高校生については、現状どのように思っているのかを知ることを目的としてアンケートを実施している。子育てについては、未婚の方は対象としていないので、参考資料とするかどうかについては今後検討したい。

3点目、市が潤うような施策について。関係課とのヒアリングを実施しているため、意見を反映していきたい。

(委員)

指標についての意見ではなく、資料構成についての意見である。指標を打ち出す前に、戦略としての内容を打ち出してはどうかということである。

(委員)

総合戦略の34ページ。地域に対する愛着が高まっているという市民割合の数値が変わっていないが、これでよいのか。全体的な意識の中心的な事であるため、お聞きしたい。このためにどうやったら良いのか、ということ。

高校生のアンケートは座間市在住のすべての高校生ではないことは私も思っていた。また、小学校中学校までが、座間市に住んで学ぶ機会があるので、郷土に対する肯定感を育てるのであれば、地域の方と協力して学校と一緒に育てていくことは重要である。持続可能性を考える際には必要かと思う。

34ページに「幼年会」について書かれている。知らないのであるが、こういう100年前から続いている組織があって今も存続しているのか。もし、途切れてしまったら、これを復活することを考えても良いのではないか。存続しているのであれば、学

びの組織として活かしてはどうか。

(事務局)

34ページの指標の件。総合計画で設置しているまちづくり指標を基本にして、こちらに使えるものを持ってきている。総合戦略では、目標年次が平成31年であるが、総合計画は平成32年であるためこのような表現となっている。

御指摘の事項については、平成22年アンケートでは19.4%であり、平成27年の目標は23%としていたが、平成26年次のアンケートでは既に23%に達していた。目標値については、各課に照会しているので、妥当な目標値を設定していきたい。指標については、仮置きで設定している。

アンケートの幅を広げる事については、そのとおりであるため検討したい。

(委員長)

「幼年会」については、座間の教育に対して非常に歴史が深いのが、現在、幼年会はない。初等教育から中等教育に関しての、教育の在り方の事例である。本来であれば、「幼年会」について説明しなければならない。

(委員)

記録の中に残っていて今も研究している方がいる。

(委員)

塾のようなものか。

(委員長)

先進事例である。今もあるように思われるため、表現を工夫しないとならない。

(委員)

小学校中学校については、アンケートの幅を広げるのではなく、郷土愛意識を育てる施策を考えた方が良いのではないかという意見である。

(委員)

2ページから図が入っているが、文字が見えない。国や市民に対して説明する資料なので、文字がつぶれる資料は使わないでほしい。

23ページ。アンケートで「その他」の割合が大きいが、特徴的な意見があればお聞きしたい。

32ページ、推進体制とPDCAサイクルとあるが、有識者の懇話会を最初に持ってきた方が良いのではないか。

暫定的な数値目標というのは理解するが、37ページ。製造出荷額とある。この設定は消極的な数値目標になっていないか。

高齢者のアウトカム指標が90.6%になっている。個々の項目は、産業構造の転換であり、それを売り出していく項目であるが、働くことが生きがいというように捉えるのは如何か。高齢者にとっての生きがいは働くだけでなく、地域へのボランティア参加などもある。

40ページ。参考資料であるが、ワークライフバランスの現状値が0件であるのは如何なものか。現在、市が何も取り組んでいないように映るので、これはやめた方が良い。本当はもっとやっていないといけないはずだし、実際取り組んでいると思う。

50ページ、一番大切な箇所であるが、合計特殊出生率については、座間市は低いということであるが、国が2060年に示している出生率は2.07であり、これを目標とすることで人口が増えもしない減りもしない数値となる。簡単に言うと国としては、2.07を維持するために、交付金を事業費ベースで1兆円見込んでいるので、いい案を出してほしいという投げかけである。合計特殊出生率が1.78で大丈夫なのか。神奈川県でも2060年に2.07を持ってくる、あるいは2040年に2.07を持ってくるという議論がある。そういう所はそうした目標達成をクリアするために、どんどん施策を出している。2.07を下回る数値を持ってくるのは消極的だと思われるのが、気になるところだ。

(事務局)

図の文字については差し替える等の対応をする。

23ページの「その他」の内容について。自由回答の欄をある一定のキーワードでくくっているため、キーワードでくくられなかったものがその他になっている。

7ページ、製造品出荷額等。現在のまちづくり指標を掲載しているが、現況を上回っているため検討したい。

32ページについても、検討させてもらうが、御指摘の通りである。

40ページ、ワークライフバランスの講座は開催されていると思うが、初期値がなかったので再検討したい。

50ページ、合計特殊出生率2.1は今の水準を保つもの。1.78とした理由については、関東ブロックの社人研でアンケートをとり、算出した数値であり、希望出生率である。先般、神奈川県の3000人のアンケートから出した希望出生率は1.42人、国の方で安倍首相が発表した数値は1.8人である。座間市では、現在の合計特殊出生率1.28から0.5を上げる。子育てしている方のアンケートはしたが、未婚者のア

ンケートは取っていない。子供を持っている方の希望は2.5人であるが、未婚者を含めるともっと下がる。社人研の数値を参考として目標値を設定した。

(委員)

最後の所は、周辺の自治体とも情報交換した方が良いと思う。希望出生率を参考にしたということであるが、少なくとも希望出生率は満たさなければならない。しかし、希望出生率の取り方もアンケートの取り方次第で変わっていることがある。見せ方も含めて考えた方が良い。

(委員長)

国の施策との整合を取っておかないと、表に出した時に、交付金の関係などでも、やる気がないと思われる。実は、工業統計調査については、既に達成しているので、数値の検討が必要である。

かなり重要な指摘を頂いた。

意見を踏まえて修正をかける。10月2日からパブリックコメントを出す。その後、庁内で会議を行い、パブリックコメントの意見を踏まえて最終版にすべく調整を図る。

第4回の懇話会では、最終版の確認をしてもらいたい。

御意見はよろしいか。

(委員)

パブリックコメントをやるということであるが、第四次座間市総合計画のパブリックコメントが少なかったため、多くの市民の方々から御意見をいただけるよう工夫をしてもらいたい。

《閉会》